

問われる、銀行のモラル 年金担保融資

年金担保融資は、年金受給者のため公的な小口融資制度ですが、年金受給者の返済能力を超える過大な融資により生活が困窮する事例が起きています。笹田トヨ子議員はその実態を明らかにしながら、適切な対策を求めます。

ケース1

架空領収書で100万円融資

カード会社等の返済に困っていたAさん、サラ金は怖いからと、大垣信用金庫のある支店に融資の相談をしたところ、年金担保融資を紹介されました。Aさんは車購入を理由に100万円の融資を受けました。年金担保融資の場合、年金受給額の全額又は半額の返済が求められます。Aさんの年金受給額は月に9万8千円で、その半額の4万8千円で生活しなければならず、生活は破綻しました。

ケース2

ヤミ金に言われるまま250万円

事業主のBさん、多重債務となりサラ金をはじめどこからも融資を受けることができなくなっていました。資金繰りに困っていたところへ、ヤミ金のダイレクトメールが飛び込み罠にはまってしまいました。ヤミ金に言われるままに、大垣共立銀行から年金担保で250万円融資を受けましたが、使用目的の審査は十分に行われていたのでしょうか。

ご意見・ご質問等はこちらへ

TEL 81-1383

<http://www.sasada-toyoko.jp/>

e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp

ケース3

サラ金返済のため100万円

高齢のCご夫婦は大垣共立銀行から年金担保で100万円の融資を受けました。融資目的は不明ですが、そのお金はサラ金返済に充てられました。その後、2人とも体調を崩してしまいましたが、年金収入は入らず、再びサラ金生活に戻ってしまいました。

笹田トヨ子議員の一般質問予定

1. 合併問題について

安八町の離脱で中核都市構想が崩れた今、まず白紙に戻し市民の意見を問うことが大切ではないでしょうか。今の時点での市長の考えを質問します。

2. 平成17年度予算編成にあたり

30人学級など少人数教育の実施や学童保育の充実および就学前までの医療費の無料化などを予算化するよう求めます。

3. 「患者中心の医療」を理念にかかげた市民病院について

リスクのない融資＝甘い審査？

「年金立替」「年金融資」などの広告で年金証書や銀行の貯金通帳、銀行印、キャッシュカードを預かることにより事実上の年金担保融資を行う悪質業者がいますがこれは法律で禁止されています。

法律で認められているのは福祉医療機構（旧福祉・医療事業団・旧年金福祉事業団）のような公的金融機関だけです。この機構のアンケート調査報告書によると、返済期間中の収入が年金のみという人が3割近くいることがわかります。また、年金担保融資以外にも借金のある人は約4割となっています。

この融資は貸す側にとって焦げ付きの危険が全くない安全な融資です。そのために審査が甘くなっているのではないのでしょうか。窓口となっている銀行はざっと申込書を渡すのではなく、返済中の生活手段を十分に確認したうえ、他に方法がないのかも含めてまず相談にのり、適切なアドバイスをすべきです。そうしてこそ、この制度の本来の目的である「高齢者の救済」にかなうのではないのでしょうか。

大垣市民病院について「インフォームドコンセント（十分な説明と納得）」の徹底など4点を要望します。

4. 年金担保融資について

市議会傍聴のお願い

9月13日（月）午前10時から

笹田トヨ子議員は4番目です。

時間は11時頃です。